

伊達政宗の観光接待

仙台市博物館 学芸企画室 明石 治郎

第8回

伝説の佐渡島

「佐渡島が松島を見たがっているのだけれど」と始まる伊達政宗の書状があります（写真）。

宛先は重臣の茂庭綱元。日付は「十三日」のみで、年代は未詳ですが、慶長十年代後半頃（一六一〇～一六一五）のもので思われます。

佐渡島（原文は「さとしま」）は、当時京都や江戸で盛行した遊女に歌舞伎を踊らせる遊女歌舞伎の座頭の一人かと思われれます。寛永年間（一六二四～一六四四）後期に成立したとされる仮名草子の『慶長見聞集』には、七人の座頭を列記した筆頭に「佐渡島正吉」が記されています。その佐渡島が、おそらくは政宗の招きで仙台に興行に来ていたのです。

政宗のもてなし

さて、書状の文面に戻りましょう。実は、佐渡島は松島を見たいけれども、手間と費用がかかるため、ためらっていたのです。それを聞きつけた政宗が、綱元に指示した内容が記されています。

①旅の費用は政宗の負担とし、天気の良い日を選んで佐渡島一座に松島見物をする。

させる、②接待の責任者を茂庭綱元とする、③伝馬（人や荷物を運ぶ公用の馬）と通行手形はそれらを担当する山家公頼に、一泊の宿は政宗側近の伊東重綱に手配させる、というものです。

佐渡島が自身で諸事を整え、天気の良い日に松島見物をするとなれば、なかなかたいへんだったことがうかがわれ、ためらっていたのもうなずけます。

ただ、政宗には思惑がありました。書状には、佐渡島が帰りがつても月末までは仙台に留めよ、とも記されているのです。京都や江戸で人気の遊女歌舞伎が長い期間興行すれば、仙台の名を領内・領外に高めることになると考えたのかもしれない。

松島と仙台

同じ頃に綱元に宛てた別の政宗書状には、松島見物に江戸から来る人を仙台城で饗応することを記すものがあります。その人が誰かは記されていませんが、おそらく幕府に仕える人物（幕臣）だったと思われる。政宗は松島見物にも便宜をはかったことでしょう。

松島、そしてそれと一帯ともみなされた塩竈は、優れた景色だけでなく、霊場

としても古来名高い所でした。政宗は慶長年間の半ばまでに、五大堂・塩竈神社を再興し、瑞巖寺を造営して、霊場としての姿も整えています。

慶長十六年（一六一二）、政宗が開いて十年後の仙台を訪れたスペイン人ビスカイノの目には、仙台城の堅固さが日本有数であるとともに城下の規模が江戸と比肩すると見えています。慶長期の仙台城下はまだ東方への広がり小さいのですが、当時としては大きな城下町だったようです。

松島見物を目的に来た人たちを含め、政宗が国元で接待した人たちは、新興都市仙台の立派なさまを世の人に伝える役割をもったのかもしれない。



茂庭綱元宛伊達政宗書状 傍線部が本文冒頭で「さとしま」 個人蔵

特別展 ライデン国立古代博物館所蔵

古代エジプト展

EGYPT, LAND OF DISCOVERIES

from The National Museum of Antiquities in Leiden, The Netherlands

2021年 7月9日[金] - 9月5日[日]

臨時休館のお知らせ

6月21日(月)

▽

7月8日(木)

展示替え作業のため、上記の期間臨時休館いたします。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

(背景)パディコンスの「死者の書」(左から)パネシの外棺、ホルの外棺、アメンヘテプのミイラ覆い いずれも部分 ※所蔵はすべてライデン国立古代博物館
All Images ©Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

※古代エジプト展の会期中、常設展は開催しておりません。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶7月の休館日 毎週月曜日、臨時休館(6月21日～7月8日) ▶開館時間 9:00～16:45、土曜日9:00～18:30(入館は全日閉館の30分前まで)

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索 ▶開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

▶博物館ツイッター @sendai_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) Tel:022-225-3074